

(別紙4-1)(ユニット1)

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173100363				
法人名	有限会社シルバープラン				
事業所名	グループホーム びえいの郷				
所在地	上川郡美瑛町大町2丁目531番地				
自己評価作成日	平成	28年	3月	16日	評価結果市町村受理日
					平成28年4月18日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=0173100363-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1 あおいビル7階
訪問調査日	平成 28年 3月 30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

プランタンびえいの理念は介護の理念のみならず、職員に対しての理念でもあり、入居者、職員の区別無く「あるがままに一人ひとりの個性を尊重し…共に暮らし、そして支えあう」ことを念頭に置き日々努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

JR美瑛駅から徒歩8分の住宅地にある1階建て2ユニットのグループホームです。隣には同一法人が経営する有料老人ホームがあり、合同で避難訓練やお祭りを行っています。両ユニットが玄関と事務所を中心に左右対称に配置され、互いに行き来しやすくなっています。ユニット内には利用者の写真や手作りのカレンダーを飾り、親しみやすい雰囲気です。地域との交流の面では、地域の夏祭りに参加したり、有料老人ホームと合同のお祭りを開催し20～30人に及ぶ地域住民と交流しています。近くの幼稚園児が太鼓演奏の披露にホームを訪れることもあります。家族との関係では、利用者の毎日の様子や写真を詳しく載せたお便りを毎月作成して提供しています。職員同士のコミュニケーションが良好で、年間を通じた研修も充実しています。また、職員は利用者の人格を尊重し、やさしく明るく接しています。外出支援の面では、天気の良い日に周辺の住宅街を散歩したり、花壇の手入れを行っています。年間行事は、年2回の温泉ツアー、桜やラベンダーの花見、外食、東川の氷祭りなどに出掛けています。明るい環境のもと穏やかに過ごせるグループホームです。
--

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)		1 ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 利用者の2/3くらいが			○	2 家族の2/3くらいと
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどつかんでいない				4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)		1 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある			○	2 数日に1回程度
		○	3 たまにある				3 たまに
			4 ほとんどない				4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)		1 ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている
			2 利用者の2/3くらいが				2 少しずつ増えている
		○	3 利用者の1/3くらいが				3 あまり増えていない
			4 ほとんどいない				4 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)		1 ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 職員の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1 ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)		1 ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 利用者の2/3くらいが				2 家族等の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが				3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない				4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		1 ほぼ全ての利用者が				
		○	2 利用者の2/3くらいが				
			3 利用者の1/3くらいが				
			4 ほとんどいない				

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	個性を尊重しその人の願いを受け入れられるように事業所理念を各所に掲示し、再確認しながら管理者と職員でサービスの実践につなげられるようにしている。	独自に作成し、見直しを加えた理念の中で「地域住民の皆様と協力し」という文言を示し、事務所や休憩室、各ユニットに掲示しています。職員の名札の裏にも印刷し、共有するようにしています。会議でも理念の内容を確認しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域イベントの参加希望を確認し対応している。事業所でのお祭りや行事でボランティアの方や近所の方と交流機会がある	地域の夏祭りや近隣の中富良野町のお祭りに利用者と出掛けています。隣接する同一法人の有料老人ホームと合同でお祭りを開催し、20～30人に及ぶ地域住民が参加しています。近くの幼稚園児が太鼓演奏の披露にホームを訪れています。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア会議で入居者様の状況や認知症についての状態の情報交換を行ったり、運営推進会議でご家族や参加者の質問を受け付け理解して頂けるように努めている。		
4		○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催しサービス状況の報告や意見交換を行い、サービスの向上に心がけている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回町役場主催の地域ケア会議へ参加し、各事業所と情報交換や連携をテーマにした事例検討も行っている。各事業所同士の連携によりサービスの調整や経過の確認を行っている。	運営推進会議に町職員の参加を得ており、情報提供を受けています。町が主催する「地域ケア会議」に管理者が参加し、町の担当者と情報交換を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修等で身体拘束に繋がるケアの確認をしている。ご家族の希望時や夜間以外は施錠しないで外出の希望には速やかに対応しご本人を見守っている。	身体拘束を行っておらず、禁止の対象となる具体的行為が載った「身体拘束ゼロの手引き」などを参考に、年に1回程度勉強会を行っています。玄関は通常日中の施錠していませんが、職員が少なくなる場合などに一時的に施錠することがあります。外出の希望があれば同行しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の虐待防止、拘束について職場内、外の研修で学ぶ機会をつくり、全体会議等で言葉使いなど含め振り返って注意している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内、外で権利擁護や成年後見制度に関する研修参加の機会をつくっている。現在は成年後見制度が必要と考えられるご利用者はいないが、今後実践に対応できるように継続して学ぶことが必要と考えられる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談時にサービス内容、利用料、入院時から退居時までの説明を行いその方に合わせグループホームで柔軟に対応するよう説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の方の日常の発言は大切に聞いているが発言が難しい場合はご家族への確認や定期的なアンケートを行い満足度、要望の把握に努めている。	家族が月1回程度は来訪し、来訪時や運営推進会議で意見を聞き、意見を「連絡ノート」で共有しています。年1回、家族アンケートを実施し、結果を運営に反映しています。利用者の毎日の様子や写真を載せたお便りを毎月作成し、家族に提供しています。	家族から得られた意見を共有しやすくするよう、利用者ごとに整理し記録することを期待します。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者は職員の意見や提案を聞き事業計画を立て反映させている。	毎月の全体会議とユニット会議およびカンファレンスで職員は活発に意見交換をしています。管理者と職員は年1回、面談を行っています。備品管理や行事、食材管理などの業務を職員が分担して行い、運営に参加しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員に頻繁に意見、要望の確認に努め働きやすい環境や労働条件の整備改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	計画的に職場内研修を行っているが、外部研修の機会が少なく職員が平均的には参加できていない為、遠方の外部研修なども受ける機会をつくる必要がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	遠方の他法人の協力者と連携を図り職場内での仕事の悩みの解消、サービスの質の向上に繋がるよう定期的に勉強会を行うなど取り組んでいる。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始時に生活習慣を尊重し新しい環境でもその人にあわせて安心して暮らして頂けるよう相談し関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前の相談の機会にはそのご家族の不安や要望を確認し、体験入居などの機会もつくり共に援助ができるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用相談時に必要としている支援の内容を確認し必要としている支援に適しているか他のサービスの対応も含め相談している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「共に暮らしそして支え合い」の理念を心掛け、家庭的で穏やかな関係づくりに努め本人の思いを共感し温かく暮らせるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人への思いを尊重し生活や心身状況の情報交換をし共通の思いで支援できるよう心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と協力しお墓参りや入院者のお見舞い葬儀出席等これまでの馴染んだ人や場所と途切れない生活が継続できるようその都度対応している。	3～4人の利用者に馴染みの友人が来訪しています。知人の葬儀への出席を支援することもあります。初詣に美瑛神社に行ったり、近くのスーパーや100円ショップに行く利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中、気のあう方と席を隣り同士にするなど談話や交流機会に繋げている。行事活動機会等で職員も間に入り円満な関わり合いができるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等で退居になる場合でも必要に応じてご家族のご要望に答え柔軟な対応できるように努めている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話やご本人の行動の中での表情等からその人の思いを考え尊重し本人の願う暮らしができるよう努めている。	3分の1程度の利用者は言葉で思いを表現でき、言葉での表現が難しい利用者の場合も選択肢を見せて問いかけし、思いや意向を把握しています。フェイスシートとケアチェック表を作成し、ケアチェック表は2年毎に見直し作成しています。	3ヵ月または6ヵ月の介護計画更新時にケアチェック表も見直し作成することを期待します。また、利用者のできることできないこと、好きなこと嫌いなことなどの情報も盛り込んでいくことを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人からこれまでの生活習慣等を聞き取り、ご本人がその人らしく望む生活が継続できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの心身状態の把握に努めその方の立場になり動作や判断力を発揮しづらい原因はないか把握しスムーズに力を発揮できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族の生活意向を確認し介護計画を作成し介護援助している。職員の意見も聞きその人らしく満足できるサービスの提供に努めている。	介護計画を3ヵ月または6ヵ月で見直し作成しています。3ヵ月毎にモニタリングを行い、職員意見を集約して次の計画に反映しています。日々の介護記録にケアプランの番号を記載しながら、プランに対応する支援内容を記録しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の小さな変化など引継ぎ連絡帳で情報を共有し会議等で情報を確認しケア方法の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族が困っていて協力できることがあれば自宅での生活と変らず要望が叶えられるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の店を利用したり、地域・季節のイベントを伝え好まれる場合は参加の支援に努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の協力病院を中心に事業所の看護師と連携し、ご本人、ご家族、医師と相談の上、専門病院への受診・検査が必要な場合は受診地域を広めるなどして支援している	ほとんどの利用者が協力医療機関の町立病院を定期的に受診しており、概ねホームで通院を支援しています。1回の受診毎に「受診記録簿」を作成して、情報を共有しています。ホームに看護師を配置しています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所として看護師を配置しており、介護職員と入居者の方の心身状況の把握、対応の確認をしている。事業所看護師と医療機関との連携により適切な受診ができるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にご家族と同行し医療機関と情報交換し治療内容を確認している。入院中は医療機関、ご家族とご本人の負担など配慮し退院時期の相談をしご本人の負担がなくスムーズに対応できるように心がけている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	ご家族から終末期の意向を確認し、事業所ができる支援の説明をしている。病状の重度化が進み入退院が繰り返される場合は主治医、ご家族と相談し、ご本人の望む治療、療養の意向を尊重し対応している。	「重度化した場合における対応指針」を用意し、利用開始時に説明していますが、同意の署名捺印は得ていません。緊急時の医師確保などの課題から、現状ではホームでの看取りが難しい旨を説明しています。	「重度化した場合における対応指針」の説明時に同意の署名捺印を得ることを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の協力により年2回、救急救命心肺蘇生法、AEDの取り扱い方法の講習を受け、職場内研修で急変時の対応に関する研修をするなど対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	非常災害時の物品を確保している。また消防署の協力で年2回（1回は夜間）避難訓練を行っている。災害時の地域支援の協定の情報交換を行っている。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を消防署の指導のもと行っており、地域住民にも参加を呼び掛けています。職員の救急救命訓練を毎年行っています。備蓄品を用意し、噴火など、火災以外の対策についても話し合っています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所理念である「一人ひとりの個性を尊重し」とその人の理解やすく安心できる言葉かけを意識している。プライバシーの保護の研修機会もつくっている。	利用者への呼びかけは「さん」とし、やさしく声掛けしています。年2回、接遇やプライバシー保護などの研修を行っています。個人ファイルは事務所に適切に保管しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活でご本人の希望を聞き対応している判断に迷う場合はアドバイス、導きにより自己決定しやすいよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人と相談し価値感やタイミング、ペースを配慮して過ごして頂けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人の好みにあわせて外出時はコーディネートなど相談して決めている。希望がない場合はご家族の意見や職員の判断で必要品の準備をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や感想を聞いたり職員と利用者が一緒に後片付けをして力を活かせるようにしている。外食の機会などで自己決定して楽しむ機会もある。	隣接する有料老人ホームからおかずが提供されますが、ホームでご飯を用意し、必要に応じてミキサー食等もしています。毎月第二日曜日には誕生日メニューが提供されます。職員は利用者の食事介助を行い、時間をずらして同じメニューを食べています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食習慣やその時々状態を見極め食事、水分量調整、脱水に注意している。姿勢や使用具調整で自立した動作が出来るよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを支援し自らケアされる方は磨き残しなどないか見守っている。毎日、義歯の消毒の支援をして口腔内の違和感などの早期発見に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄間隔の把握に努め訴えが難しい方は行動の変化等の特徴を見極めトイレの声掛け誘導を行い、オムツ、パット、使用具の適正を見極め自立した排泄の支援をしている。	3分の1の方は自力でトイレに行くことができます。全員の排泄状況をチェック表で把握しています。誘導が必要な利用者をトイレに誘導する場合は、耳元で、直接的な表現を避けるなど羞恥心に配慮しています。状態に応じてベッドでおむつ交換を行っている利用者もいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤の使用の他、水分量や種類調整を行ない運動機会をつくり、排便時の腹部マッサージを行ったりしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	入浴日は決まっているが一人ひとりにあった状態でゆっくり入浴して頂けるよう支援している。温泉に行くなどの機会もついている	週2回入浴日を設け、両ユニットが曜日をずらしています。午前または午後の時間帯で週2回入浴しています。入浴剤を使ったり、音楽を掛け、利用者が楽しめるようにしています。希望があれば同性介助に対応しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はその人の希望や疲労を見極め適度な休養をして頂けるようにしている。就寝時間はその人のタイミングで幅広い時間で就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時に薬の変更がある場合は医師からの説明情報を受診記録等で共有し、看護師との薬の使用、注意事項の確認をしている。心身状態の変動がある場合は薬の副作用も考え通院時に医師に相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1日の流れの中で個々の好み習慣やその人のできることを活かして趣味活動や役割、気分転換の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望者を確認し外出行事の機会をつくっている。個人ではその時の状況に合わせ突発的な用事で馴染みの人に会いに行ったりドライブなどで地域に出る機会をつくっている。	天気の良い日に周辺の住宅街を散歩したり、花壇の手入れをしています。車いすの方も一緒に散歩をしています。年間行事では、年2回の温泉ツアー、桜やラベンダーの花見、外食、東川の氷祭りなどに出掛けています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持金は通常、事業所で預かりご家族に出納長を送付し報告している。外出時などは本人に所持金を渡し自由に使えるよう支援している。見守りにより個人で通帳等を所持し記帳や引き出しを自らされる方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話連絡の取り継ぎの支援をしている。手紙のやり取りなどは少ない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ひとり一人が過ごされる慣れた場所で心地よく過ごせるよう対応している。室温、湿度の管理を行ったり音楽を流したり季節ごとの作品を飾るなどしている。	両ユニットが1階で、左右対称に配置され、気軽に行き来ができます。共用空間は広く、前面に窓があり明るく開放的です。利用者の写真を拡大して数多く掲示し、手作りのカレンダーも飾っています。新聞や雑誌をさりげなく置き、加湿器で湿度が適切に保てるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では決まった座席で複数の慣れた人同士で過ごしたりいつでも別ユニットに行き来ができ好きな空間で活動できるよう配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は動きやすく趣味活動等ができるよう相談し必要品の準備や環境整備を支援している	居室は利用者が個々にテレビやたんす、趣味の模型など馴染みのものを持ち込んでいます。壁にはカレンダーやポスター、手芸作品などを自由に飾り、本人らしい居室になっています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	共有空間はバリアフリーになっており中心部のキッチンからは全体を見渡せる為、ご本人の日常活動を見守り要望を聞き取りスムーズに繰らせるよう配慮している。		